

# 支える会通信

## 徳島で、熊谷で 支援する会結成！



### 徳島では・・・

7月3日、自治労プラザ（徳島市）で「JAL闘争を支援する徳島の会」（略称・支援の会徳島）結成総会を開催しました。総会には自治労徳島県本部など23団体代表、支える会会員ら50余名が結集、討論の後、

団結ガンバローを三唱しJAL闘争支援の決意を固めました。

総会は議長に田中定昭さん（国労）を選出、大谷竹人さん（自治労）から「JAL闘争について、矛盾だらけの整理解雇に憤りを感じ署名・物販などに協力してきました。2012年3月29日、30日の東京地裁判決は、思いもよらない整理解雇有効の不当判決でっかりでしたが、同時に大きな怒りと危機感を感じました。判決は、会社がどんなに黒字でも解雇有効ということですから、会社の都合で労働者はいつでも首を切れるということにほかなりません。これは大変だ、こ

発行責任者  
柚木康子  
大田区羽田  
4-10-4  
石井ビル3階  
TEL03(6423)7878  
FAX03(6423)7430  
メール  
sasaerukai@  
lemon.plala.  
or.jp

れでは解雇自由社会になつてしまつ、そんなことは許せない、ということと5月30日、JAL闘争を支援する準備会を結成（4団体）、県内の労組、民主団体にJAL闘争支援を呼びかけてきました。多くの団体の協力で今日を迎えることができ感謝しています」と、これまでの「支援の会徳島」結成の経過と意義が報告されました。

つづいて河村洋二準備会事務局長が「支援の会徳島大集会」（10月予定）までに「公正な判決を求める署名」や「支える会会員募集」（1団体5名の会員拡大）、支援物販を大車輪で展開するなど活動計画、支援体制づくり、支援の会規約、予算、役員などの提案を行いました。鈴木圭子さん（JAL闘争を支える会事務局次長）

からは、「JAL闘争の現状と課題」について問題提起を受けました。鈴木さんは「会社の破たんの原因は、JAL経営陣の長年の放漫経営と航空行政の誤り（空港の乱造による赤字路線のJALへの押しつけ、ジャンボジェットの必要以上の購入など）が原因だった」と、会社の目的は組合つぶしにあること、整理解雇四要件を事実上きもものにする不当判決であること、

（「整理解雇の必要はなかった」との稲盛元会長証言や計画を大きく上回った利益があつても解雇の必要性を認め、労組提案の解雇回避策を検討しなかつたことや、解雇ありきの形式的な団体交渉が繰り返されたこと等を問題視しない）、などJAL闘争の真相を具体的に報告し、支援の輪を広げJAL闘争に勝利したいと決意と協力要請がありました。その後質疑応答がなされ、全体で議案を確認しました。なお代表委員には藤岡一雄（自治労県本部委員長）、

田中定昭（国労四国本部副委員長）、春田洋（徳島県農協労連副委員長）、河村洋二（国鉄闘争センター徳島代表委員）の四氏が就任しました。（徳島発）

**東京高裁証人尋問に傍聴を！**  
客室乗務員裁判 9月12日（木）  
10時～16時半（昼休み有）101号法廷  
パイロット裁判 9月26日（木）  
午前・午後（詳細調整中）101号法廷  
傍聴するには傍聴券が必要です。傍聴券配布時間についてはお問い合わせください。

埼玉・熊谷でも・・・  
「JAL争議団を支援する熊谷の会」は熊谷地区労を母体組織として8月2日、結成されました。

熊谷地区労は1987年から始まった「国労攻撃」と「国鉄分割民営化」に貫して反対をし、地域で20年以上に及ぶ闘いを行ってきました。地域に支援共闘会議を組織し、加盟組合で



解雇4 整理 こと、 ち取る 決を勝 勝利解 も早い 目的は 活動の した。会

ある国労熊谷支部と国労北見闘争団と連帯しながら「国労攻撃」「国鉄分割民営化」の真の目的は何かを訴え続けてきました。そのような経過を踏まえ、現在闘われている「JAL争議」も国鉄闘争と基本的には同じ構図の中で闘われていることを確認しました。

要件の蹂躪と働くことへのルン破壊を許さないこと、安全と公共性を最優先したJALの再建、他争議団との交流と相互支援、連帯の強化をはかること、JAL争議を地域の市民へ広く宣伝することです。これらの目的に向かって以下の方針で取り組みを進めます。

JAL闘争を支える会会員の拡大、争議団からのオルグの受け入れと、JAL争議に関する学習、署名活動、物資販売活動への取組み、熊谷地区労と連携した会の運営、会の運営費は、会員からのカンパ・熊谷地区労からの分担金等でまかなう。

(熊谷発)

# 山口団長の意見が朝日新聞「私の視点」に!

JAL不当解雇撤回裁判  
パイロット原告団長



山口 宏弥

## 私の視点

政府の成長戦略の柱に「世界で一番企業が活動しやすい国にする」がある。そして成長産業に労働力を移動させるために、解雇の金銭解決や限定正社員制度といった分野での解雇規制の緩和が検討されている。ところが、こうした雇用の規制緩和が、将来の日本社会に及ぼす負の影響などについてはあまり議論されていない。

### 技術持つ解雇労働者 優先を

再建企業の再雇用

私が解雇された2010年12月、JALは「更生計画」上の人員削減目標や利益目標を達成した。その後、2年連続で史上最高の営業利益を上げた。しかも、累積欠損金があるため、法人税はゼロ。ANAホールディングスの伊東信一郎社長は6月の株主総会で「再生(の方法)はやり過ぎだったと言わざるを得ない」「競争が平等な状況にない」と語った。

### 記事掲載までの経緯

6月18日朝日新聞オピニオン欄に特集「JALの教訓」が掲載されました。一面が稲盛名誉会長のインタビュー記事で、稲盛氏の持論と氏を称賛する記事で埋め尽くされていました。インタビューからは165名の解雇や裁判など全く読み取れませんでした。そこで朝日新聞社に直接「インタビュー記事は、JALの解雇事件など真実が伝わっていない」と抗議、その結果「私の視点」への投稿を促されました。見出しは朝日側が付けたものです。朝日への投稿、実は経営破たん前の2009年9月、破たん後の2010年1月、2013年3月に続く4回目です。粘った結果、不十分な内容ですがやっと記事になりました。(乗員原告団長 山口 宏弥)

# 東京と京都で株主総会宣伝行動

株主総会でも解雇問題について発言が

東京では、6月19日8時30分より、武道館で行われる株主総会に参加する株主に対し、宣伝行動を行いました。原告団と支援者約40名は九段下駅出口付近に並び、横断幕をもちながら通過する株主に対しチラシを配布しました。山口・内田両団長は解雇事件が日本航空の安全に与える影響、係争事件を5件も抱え利用者第一・安全第一となっていない日本航空の経営姿勢等を訴え、総会において解雇問題を解決しよう日本航空に対して意見を言っしてほしいと、訴えました。又、反対側の道路には「日本航空はベテラン乗務員の解雇を撤回しろ！」という横断幕を街宣車から垂らしてアピールしました。



当日通行する株主の中には、原告団ハッチをジャケットの襟に付け「頑張ってくるよ!」と声をかけてくれる支援者がいらつしゃいました。会場ではILO勧告に関する政府から会社への要請について質問をしてくださった株主の方がいらつしゃいました。日本航空は「日本政府からの指導はない。」と回答、政府がILO勧告を無視したまままだということが明白になりました。又「安全と言いながらベテランを解雇するのはおかしい。」

「新人を採用するより解雇した乗務員を飛行機に乗せるべきだ。」と発言をした株主もあり、その発言に対して拍手をした人もいました。株主総会の出席者は報道によれば1600人でした。原告は総会開会の10時まで宣伝行動を行った後、水谷橋公園から銀座を支援者を含め総勢60名でデモ行進し、道行く人に日本航空の不当解雇事件を訴えました。

JAL稲盛名誉会長夫人に要請書手渡し

京都では、6月26日朝から、京セラ株主総会抗議宣伝行動と稲盛和夫名誉会長への申し入れ・要請行動が原告団と「日本の航空の不当解雇撤回をめざす京都共闘会議」(JAL闘争京都共闘)の共催で、京セラ本社前で行なわれました。

豪雨にもかかわらず地域の14の支援労組・団体の22名が結集し、株主に「今でも二人の役員を派

遣している」と京セラの総務の窓口自身が言っている。B787の運行再開のことが起これば京セラにも無関係ではない。」等と訴えました。株主はピラに熱心に目を通し、豪雨にも関わらず200枚のピラはまたたくまにはけて不足するほどでした。

山口・内田両原告団長からの力強い挨拶・決意表明のあと、JAL闘争京都共闘の佐々木眞成京都総評副議長が代表となつて交渉団を編成し、稲盛氏本人への面会を求めて株主総会会場である京セラ本社前で30分近く要請を行いました。両原告団長が東京から来ているのに稲盛氏の誠意は全く見られず、「一瞬も出られない」との失礼な返答で要請書を手渡すのみでしたが、株主の方々はアピールすることができました。

その後、京セラ本社からほど近い稲盛氏の地元、

伏見大手筋商店街を山口団長のハンドマイクでの訴えを先頭にモモタロウ支援部隊が繰り出し、道行く買い物客にピラを配布しJAL不当解雇問題を訴えました。熱心に訴えに耳を傾ける地元の市民も多く、激励の声をかけてくれる通行人もいらつしゃいました。

京セラ株主総会終了のころあいを見計らい、支援者と共に伏見桃山城手前の稲盛氏宅を両原告団長ら三人の原告が訪問しました。稲盛夫人が快く玄関を開け応対してくださり、「わざわざ東京から来ていただいて。きょうは遅くなると言っていました。」と要請書を受け取り、ていねいに見送りにも出てくれました。

JAL本社や京セラ株主総会でさえ一度も原告本人と直接交渉に応じない稲盛氏に対する要請書が、初めて確実に本人に手渡されることとなりました。

原告団の紹介

長澤利一（神奈川県出身）



解雇闘争は3年目を迎えました。55歳という

早期解決をめざす 10・25大集会

年内結審、年度内判決をひかえ勝利をめざす決起集会です。一人でも多くの方のご参加をお願いします。

日時：10月25日(金)18時開場 18時30分開会  
場所：文京シビックホール



理由で、真面目に飛んできた機長の仕事をなく奪された日は忘れられません。苦しいこともたくさん経験しました。その一方で、暖かい支援のお力をいただき頑張ることができました。ありがとうございました。

横堀 寧（山梨県出身）



私は病気休職を理由に解雇されました。会社

は「家族を守るために早く退職を決意しろ」と退職を迫りました。私は妻と幼い子供2人を守るために絶対に負ける訳にはいきません。悪しき前例を作らないためにも精一杯闘います。

榊原陽子（群馬県出身）



父親の仕事の関係で転校生でした。

生まれは静岡。神奈川に3年。一番長いのが群馬です。それぞれの土地に戻ると自然と静岡弁、浜言葉、上州弁が口について出ます。懐

かしい場所が沢山あり幸せです。

二宮音子（愛媛県出身）



私は会社も、仕事も、一緒に働く仲間

間も大好きでした。整理解雇から2年経った今も変わらず、同じ気持ちであります。

加藤千加子（栃木県出身）



宇都宮市生まれ）都立小平

高校2年の時、「絶対JALのステューデスになる！」と決意。歌が大好き。今、頭の中を占めているのはアパンマンマンマーチ。深い歌詞に勇気を貰っています。

齋藤晃（新潟県上越市出身）



上越市は、米とお酒の美味しい街です。平成

6年割愛制度で海上自衛隊から（株）日本エアシステ

ムに入社しました。4年の地上勤務の後、12年間副操縦士としてA300 600型機に乗務しました。ようやく機長訓練が開始されましたが、解雇されました（支える会事務局）

《今後の日程》

- 8月21日 原告団銀座パレード 18時日比谷図書文化館集合
- 8月29日 全国一斉宣伝行動
- 15時〜福岡空港国内線ターミナル
- 18時〜新宿駅南口、立川駅北口、品川駅南口、池袋駅東口、錦糸町駅北口
- 天神ソラリア前、小倉駅、博多駅
- 18時半〜有楽町マリオン前、大阪なんば高島屋前、
- 9月5日 18時〜JAL本社前宣伝行動
- 9月7日〜11日 全国キャラバン東北
- 9月12日 10時〜客室乗務員裁判

- 9月17日〜20日 全国キャラバン四国・新潟
- 24日〜30日 全国キャラバン高崎・九州
- 9月25日 16時15分〜45分 JAL本社前宣伝行動
- 9月26日 午前・午後パイロット裁判
- 9月27日 大阪宣伝行動
- 18時半〜大阪なんば高島屋前
- 9月30日 全国一斉宣伝行動（都内8・29に同じ、福岡未定）

住所やアドレスを変更される方をお願いです！

ニュースや支える会継続のお願いを郵送すると住所違いで大量の封書が返送されます。

財政上の理由によりメール便を使用しておりますので、転送サービスがありません。変更される時には是非事務局までお知らせくださいますようお願い致します。メルアドの変更も同様をお願い致します。